

野菜・花き類でハスモンヨトウ多発のおそれ

～ほ場を確認し、早期に捕殺や薬剤防除をしてください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

キャベツ（秋冬どり）の巡回調査における9月4半旬の株当たり幼虫数は0.4頭（平年0.0頭）で多く（図-1）、秋田市予察ほにおける9月5半旬の株当たり卵塊数は0.04個（平年0個）と増加している（図-2）。

キャベツ、ねぎ等の野菜類の他、きく、ダリア等の花き類やりんご、なし等の果樹での発生も多く見られている。

9月22日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されている。

以上のことから、今後、野菜・花き類で被害が多くなることが予想される。

2. 防除対策

- 1) 本種は広食性で幼虫が多くの作物を食害する。
- 2) ほ場を確認し、卵塊や若齢幼虫の群生(図-3)が見られる葉は取り除き捕殺する。
- 3) 中齢期以上の幼虫(図-4)になると、ほ場に分散して食害するようになり、被害が大きくなることに加え、薬剤の効果が低下するので若齢期での防除を徹底する。
- 4) キャベツ、花き類の主な防除薬剤は表-1、2のとおりであるが、その他作物については、各作物に登録のある薬剤で必要に応じて防除する。
- 5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同じRACコードの薬剤は連用しない。

3. 資料

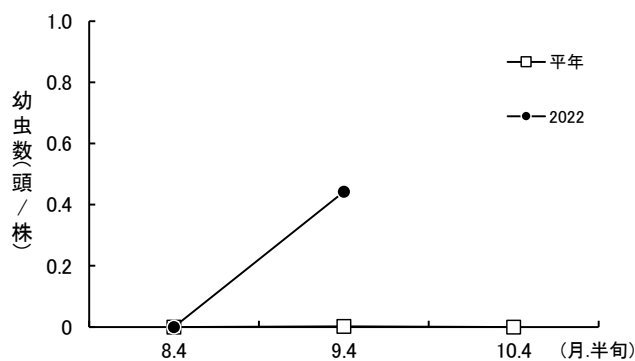


図-1 キャベツ(秋冬どり)巡回調査における株当たり幼虫数の推移

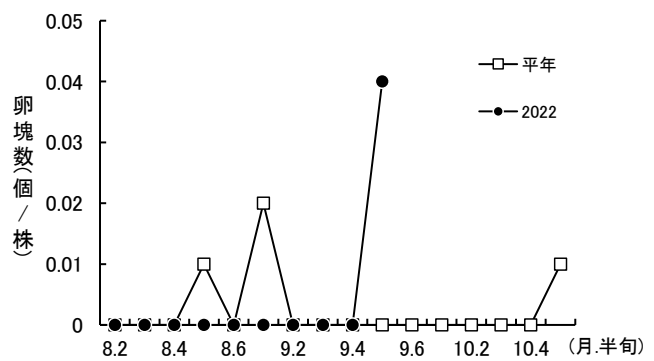


図-2 キャベツ(秋冬どり)秋田市予察ほにおける株当たり卵塊数の推移



図-3 卵塊と若齢幼虫の群生(キャベツでの食害)



図-4 中齢幼虫(ねぎでの食害)

表-1 キャベツの防除薬剤

RACコード	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	散布液量
6	アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	3	
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2	
3A・1B	ハクサップ水和剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	5	
30	プロフレアSC	2,000~4,000倍	収穫前日まで	3	
15	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	4	100~300L/10a
15	カスケード乳剤	2,000~4,000倍	収穫7日前まで	2	
15	ノーモルト乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2	
15	マッチ乳剤	3,000倍	収穫7日前まで	3	
1B	エルサン乳剤	1,000倍	収穫14日前まで	2	

表-2 花き類の防除薬剤^{※1}

RACコード	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	散布液量
13	コテツフロアブル ^{※2}			2	150~300L/10a
3A	アディオン乳剤 ^{※2}			6	
15	ノーモルト乳剤 ^{※2}	2,000倍	発生初期	2	100~300L/10a
28	フェニックス顆粒水和剤			4	

※1: 薬剤により「花き類・観葉植物(〇〇を除く)」等での登録になっていることがあるので内容を確認する。

※2: 「ヨトウムシ類」での登録。

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>